

第1問 答案用紙〈1〉

(会 計 学)

問題 1

問 1

仕掛品		(単位:円)
前 月 繰 越	3,000,000	製 品 (40,721,000)
直 接 材 料 費 (	24,160,000)	次 月 繰 越 (4,929,000)
直 接 労 務 費 (	7,550,000)	
製 造 間 接 費 (	10,940,000)	
合 計 (	45,650,000)	合 計 (45,650,000)

問 2

メリット① 計算の迅速性

メリット② 偶然性の排除

問 3

原因① 間接作業時間

原因② 手待時間

問 4

	第 1 製造部門	第 2 製造部門
予算差異	270,000円 (有利差異・不利差異)	589,000円 (有利差異・不利差異)
操業度差異	500,000円 (有利差異・不利差異)	320,000円 (有利差異・不利差異)
製造間接費配賦差異	230,000円 (有利差異・不利差異)	269,000円 (有利差異・不利差異)

注 ()内の有利差異・不利差異のいずれかを○で囲むこと。

問 5

管理標準とする製造間接費は実際操業度に見合った金額が望ましく、それは、固定予算と比較して、実際操業度と基準操業度の差の分の変動費資源の減少分だけ少なくなる。
この点、固定予算を管理標準として用いた説明には問題がある。

問 6

(1)責任会計は、会計システムを管理上の責任に結び付け、職制上の責任者の業績を明確に規定し、もって管理上の効果を上げうように工夫された会計制度である。
(2)補助部門費について、①複数基準配賦法を採用し、②予定配賦を行うとともに、③相互配付法を用いて配賦計算を行う。

問 7

総合原価計算に移行すると、原価の集計単位が期間生産量となる。そのため、月末仕掛品がある場合にはその加工進捗度、製造に必要な財貨の投入状況に関するデータが必要となる。

第1問 答案用紙〈2〉

(会 計 学)

問題 2

問 1

標準原価カードに含まれている製品 1 個当たり仕損費の金額	
原材料費	600 円
加工費	1,000 円

問 2

(1)	①	現実的標準原価					
(2)	②	シ	③	キ	⑤	エ	
(3)	④	理想標準原価					
(4)	操業度		比較的短期における予定操業度				
	価格		予定価格				
(5)	発生した仕損をすべて明示することにより、長期的な仕損削減の動機を与えること						
(6)	⑦	原価管理					
	⑧	棚卸資産価額の算定					
	⑨	予算編成					

問 3

(1)

当月標準仕損発生個数	128個
------------	------

(2)

☒ 良好・不良		※いずれかを○で囲むこと
理由	標準の仕損発生数量が128個に対し、実際の仕損発生数量は100個となっている。	
	仕損の発生率をかなり高く見込んでいたが、その見込みが適切なものであるならば、生産活動は良好であると考えられる。	

問 4

原材料費に関わる仕損差異	67,200円	☒ 有利・不利
--------------	---------	--

※いずれかを○で囲むこと。

「この解答速報は、(株)クレアール独自の見解に基づいた解答になります。また、解答速報の著作権は(株)クレアールにあり、無断転載・転用を禁じます。」

第2問 答案用紙〈1〉
(会 計 学)

問題 1

問 1

名 称	標準原価計算
-----	--------

問 2

部品の共有化を図ることにより、部品の点数が減少することによる在庫管理の効率化、設計・開発の効率化などによる原価低減を期待することができる。実際に部品を使用するのは製造段階であるが、その原価の発生額の大部分は設計・開発段階で決定されることになる。したがって、部品共有化などによる原価低減効果を享受するためには、設計・開発段階で行う源流管理が重要となる。

問 3

①	②	③	④
許容	3,600,000	7.5	2
⑤	⑥	⑦	⑧
1,026,000	32,000	86.4	成行

問 4

価値比率が100%を下回る場合には、見積原価が目標現価を上回っていることになります。そのため、ボディと内装は原価を低減する必要があります。それに対し、エンジンとサスペンションは価値比率が100%を上回っているため、コストに余裕があり、機能の追加が可能です。

問 5

鋼材	$\alpha \cdot \textcircled{A}$	いずれかを○で囲むこと
金額	月間	29,760千円有利

問 6

当社が採用している差別化戦略においては、他の事業者が提供できない独自の製品を顧客に提供し、高い評価を得ることが重要となる。したがって、原価低減ばかりに目を向けるのではなく、独自の製品を開発するための機能の追加を妨げないように留意すべきである。

第2問 答案用紙〈2〉
(会 計 学)

問題 2

問 1

ア	80	イ	187.5
---	----	---	-------

問 2

正味現在価値	9,509,462.0円	回収期間	2.8年
--------	--------------	------	------

問 3

①比率で計算するため価値加法性の原理が成立しないとともに、②内部利益率による再投資を仮定する点が非現実的である。
--

問 4

製品 X1	450本	製品 X2	250本
-------	------	-------	------

問 5

(1)

製品 X2	3,600本	製品 X4	5,400本
-------	--------	-------	--------

(2)

差額	87,772.8円
----	-----------

製品 X4 に切り替える案を採択(すべき・すべきでない) ←いずれかを○で囲むこと

「この解答速報は、(株)クレアール独自の見解に基づいた解答になります。また、解答速報の著作権は(株)クレアールにあり、無断転載・転用を禁じます。」